

第223話 達磨寺田植踊り その5 中山町 歴史散策

達磨寺田植踊りの曲目と歌詞の続きです。

○米搗き

口 上

「吹いてく吹き散らかしては置かれまい、東山出来のオノレきぎ(杵)をとって、シトントントンと搗いて呉れることは出来まいかな、姉だ」

「お台所と川の瀬は、搗けたかくへ何時もドンドと鳴る、鳴るよえ、搗けたかくへ

へなあもうさ鳴る、鳴るよい

○ほまち田(ほまち田の田植)

口 上

「隠居様のほんまち田、三千三百三束刈、これを植えて、明日は早天さなぶり、皆々精だせく」

へしかも此所は街道のはた田、手坪を揃えて植えやれ

へソーレワヤー 乱れ苗をしゃんと取りて、しゃんと植えればそよぐ

へソーレワヤー 一本植えれば、千本なり揃う、前田の早稲もそよぐ

へソーレワヤー 三百刈りで三千刈ったが、裏に積んだが見よかろう

へソーレワヤー 裏に積んだが見よいならば、表に積んだがな

かる

へソーレワヤー 戻り申すぞ、帰り申すぞ、来年参るぞ、御亭様

へ上りはかの早乙女たちは、どれからどれ迄流れだ

へソーレワヤー 大黒恵比寿さき立て、うかの前にて酒盛

へソーレワヤー 戻り申すぞ、帰り申すぞ、来年参るぞ田の神

○花づくし褒めことば

「しばらくく、しばし止むる拙者めが、褒めるなどは甚だ失礼には存じ候へども、あまり田植えの面白さに、一と言ばかり褒め申そう

一つに御師匠、二に太鼓、三に揃うた御田植、四つ吉野の糸桜、五つ色ある百合の花、六つ向うの早乙女花、七つ南天花ざかり、八つ八方の賑やかさ、九つここでの御田植、十で通りの人々も、足をよどめて御見物、ほほ、敬って褒め申そう

○鳥づくし誉めことば

「しばらくく、しばしと止むる拙者めは、褒めるなどは邪魔なれど、あまり田植の面白さに、ちーっとばかり褒め申そう。褒めてく褒め違いや仮名ちがいは御免なり

次号に続く

※引用 中山町史 中巻

第10章第4節 民俗芸能と娯楽

私たち地域おこし協力隊です! No.89

おかげさまで少しずつですが山形県内の野球スポーツ少年団さんやいろいろな競技のクラブチームさんとのご縁ができて、中山町の良いところをアピールする機会が増えてきています。中山町を好きになって移住してきた者としては嬉しいです。

私の活動は中山町の農作物を使用して『エネルギーチャージ食』を研究開発することです。主となる作物は『米』です。米の持つパワーや日本が瑞穂の国だということなどの伝統や文化も含め『食』を通じて、次世代へ大切に伝え残したいという気持ちが強くあります。どのような伝え方をするかは模索中ですが、開発中の商品がその役割を担ってくれると信じて試行錯誤しています。

私の故郷である栃木県鹿沼市出身のプロ野球選手がメジャーリーガーになりました。彼の挑戦する姿に触発されて私も夢を語りながら、それを叶えていく姿を子どもたちに見せたいと思いました。

今年度の活動や試作品を皆さんに報告する機会をいただきました。開催日は3月8日の日曜日です。どうぞよろしくお願いいたします。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦



「のおおこめ」の試作品

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271 (総合政策課)